

## 第4回甲州市学校再編審議会 会議録

### I 会議概要

- 1 開催日時 令和元年11月19日(火) 19:00～20:45
- 2 開催場所 甲州市役所2階 第2会議室
- 3 出席者 雨宮 亘委員、岡 武男委員、古屋 久委員、小林一三委員、伊藤和良委員、渡邊 靖委員、加山大洋委員、手塚智彦委員、五十嵐妙子委員、山本 睦委員  
<事務局職員> 教育長保坂 一仁、教育総務課長村松 泰彦  
教育総務担当リーダー清水 修、学校教育担当リーダー河村 敬
- 4 次 第
  - 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 教育長あいさつ
  - 4 議事
    - (1) 甲州市小中学校の再編に関する基本的な考え方について(答申)(案)
    - (2) その他
  - 5 その他
  - 6 閉会
- 5 配布資料 資料1 甲州市立小中学校の再編に関する基本的な考え方について(答申)(案)  
資料2 山梨市立笛川小学校・中学校長調査  
資料3 令和元年10月12日 台風19号避難所状況

### II 会議録

#### 1. 開会

事務局：こんばんは。ただいまから第4回甲州市学校再編審議会を開会いたします。なお、坂本土郎委員は所要のため欠席とのことでございます。よろしくお願いいたします。

それでは、雨宮会長からご挨拶をいただきたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

#### 2. 会長あいさつ

会 長：この会も4回目になり、本日は答申の基本的な方向について確認し5回目につな

げていくこととなります。事務局で素案が示されていますので、今までの論議を踏まえてそれぞれのお立場から意見をいただいて、よりよいものにしていただければと思っています。案については、訂正、削除、加筆することになると思いますので、よろしくお願いします。

事務局：つづきまして教育長よりごあいさつをいただきます。保坂一仁教育長よりお願いいたします。

### 3. 教育長あいさつ

教育長：お忙しい中、また夜分お疲れのところお集まりいただきありがとうございます。子供たちの様子を、多少お話をさせていただきたいと思います。実りの秋を迎え各小中学校とも地域に根ざした教育ということで、学習した成果を発表する機会を設けて、いろいろなことを展開しています。私も、2、3参加させていただきましたので、報告させていただきます。菱山小学校では、文化祭が開かれ、市内ではコミュニティスクール第1号としてスタートし、「地域とともに歩む学校」を基本に進めています。地域の方に協力いただき、地域の学習素材、人材をフルに活用し展開しています。地域の方に感謝したり、地域の方も子どもたちの発表する姿に感動したり、すばらしい文化祭がありました。

また、玉宮小ではふるさと学習発表会がありました。自分たちで作った米やさつまいもを保護者の方が調理し、地域の方にふるまっておりました。ふるさと学習として、すばらしい自然、教材がありますので、文化財やさまざまなものを調べて、子どもたち一人ひとりが学習成果を発表しておりました。

先日は、青少年育成甲州市民集会が開かれまして、家庭の日、青少年を育む日の作文、標語、ポスターを子どもたちが発表してくれまして、涙を流し感動してくれる人がいました。18校が成果を出してくれています。この後、大和小、塩山北小でも発表会が予定されています。充実した学校生活を送っています。

中学校においては県の新人戦が終わりまして、ハンドボール女子では塩山中が新人戦7連覇という偉業を達成してくれました。ソフトテニス女子も団体戦では初優勝し、マーチングは関東で銀賞を取り、勝沼中ではバドミントン女子が団体優勝しています。まだまだたくさん成果が出ていますが、代表的なものをお話しさせていただきました。学校教育の中では、小学校が来年度から新学習指導要領が完全実施されることで、外国語の教科化に向けて先生方は一生懸命取り組んでいます。また、プログラミング教育の研修を開いて、備えているところです。

本日は、再編に関する基本的な考え方についておまとめいただくとのことですので、幅広い見地から、将来、10年後20年後を見通した甲州市の教育の在り方をぜひご検討いただいて、私どももそれに従って具体的な方針を考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

事務局：議事に入るところですが、今回送付させていただきました資料につきまして若干の補足説明をさせていただきます。「甲州市立小中学校の再編に関する基本的な考え方について（答申）（案）」につきましては、この後の議事で皆様にご協議いた

だきますのでここでは割愛させていただきます。「山梨市立笛川小学校・中学校長調査」につきましては、10/28に両校長先生からお聞きした内容をまとめたものでございます。「台風19号避難所状況」は今年、10/12に山梨県に台風19号が最接近し、小中学校6校の体育館を含む22か所に避難所が設置されました。施設ごとの避難者数等をまとめたものでございます。参考にいただければと思います。

#### 4. 議事

事務局：それでは議事に入らせていただきますが本委員会の設置要綱第6条によりまして会長が議長になっていただくことになっておりますので、雨宮会長には議長になっていただきまして進行の方をよろしくお願い申し上げます。では、よろしくお願いいたします。

議長：それでは議事に入ります。

お手元に第4回の資料が配付されているかと思いますが、1度目を通していただいているかと思いますが、1回目から3回目までの議論を含めて事務局でまとめていただいていると思いますが、整合性を確認しながら進めていきたいと思っています。答申でありますので、逐条的に確認した方が良いかと思いますが、どうでしょうか。まずは、答申案の項目立てがこれでよいか、皆さんの意見を伺いたいと思います。

1番目の項目は、現状認識ということですので、小中学校の再編は避けては通れない課題であるという前提で、この審議会を起し、審議しているといった項目になろうかと思っています。2番目の項目と3番目の項目についてもこのままでよろしいでしょうか。

委員：1番目の学校再編が必要となる背景についての中で、「子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに切磋琢磨するため、あるいは学習活動や部活動、学校行事等を充実させるためには、一定の集団規模が必要で、小中学校の過度な小規模化の進行は望ましいものではありません。」とありますが、学校現場でも、この審議会の中でもその話はでていないはずですが、これが背景と言われると、少し違うのではないかと思います。「多くの小中学校が適正規模を満たしておらず」とありますが、適正規模とは何か議論も尽くされていないと思います。再編ありきというような文章は誰が言ったことなのか、小規模校だから教育環境が望ましくないと誰が言ったことなのか、実際の話としては予算面のことだったと思いますが、そのことは一切触れていなくて、小規模校には課題が多いというような背景はどうかと思います。これが答申として出されたときに、審議会委員がそう思っていると取られかねないので気になっています。

議長：基本的なことではありますが、過去3回の論議の整合性とどうかとの委員からの指摘ですが。どちらかというところ、ランニングコストの問題の方が大きかったと思いますが、私たちとしては、ランニングコストの問題についても報告は受けました

が、教育活動のなかで小規模校は課題を持っているけれども、望ましいものではありませんと言いつつ良いのか。課題はあることは事実だと思いますが、合同授業や校外活動で克服するように学校現場では頑張っているという理解をしています。書き方としては、少人数の中でのいろいろな課題を、学校現場では大変な思いをしながら頑張っている現状があります。といった方が良いのではないかと思います。

委員：なぜそういったかと言うと、小規模校化は望ましいものではありませんと言われてしまうと、再編すべきととられかねません。小学校を含め中学校もテレビ会議システムとか努力をして、小さいながらも集団としての子どもたちの力を育てようと市が中心となって取り組んでいるにも関わらず、否定されてしまったようにしかとられないので、書き方を変えてもらいたいと思います。

事務局：今回お示ししたのはたたき台ですし、文部科学省の手引きに基づいて記載してありますので、この会の議論とかけ離れた記述になってしまったかもしれませんので、修正は可能です。

議長：「学校再編が必要となる背景」よりは、「学校再編に関する審議会の議論の中で」の方が良いと思います。小学校、中学校の現状ではあるが、こういった努力をしている。課題としていくつか挙げておく、例えば、テレビ会議システムを使うにしても日常的ではない。十分な教育環境と言ってよいのかどうか。当市も再編については検討せざるを得ない状況であることは、お分かりだし、前提として議論してきたかと思います。その中でも、小規模といってもまだ頑張れるのではないか。中学校も課題としては大きいのではないかといった論議だったと思います。その次に、基本的な考え方や方針について記載していく。その次に具体的な案を記載していくことになろうかと思います。小中一貫教育の記載がありますが、話題としては出ましたが、議論はしていませんので、誤解されるといけないので入れない方が良いと思います。

委員：先ほどの背景のところ、複式学級解消のために努力をしていることも加えてはどうでしょうか。

議長：市民の方が読んでわかっていただくには具体的な記載も大事ですね。その上で、小学校、中学校ではいくつかの課題があることを記載する必要があると思います。その上で、方針や取組を記載していただくことでどうでしょうか。

委員：1番目のタイトルとしてはこのままでしょうか。

事務局：先ほど議長さんがおっしゃった「学校再編に関する審議会の議論の中で」に変更いたします。

委員：必要となると避けては通れないは抜いてほしいです。

議長：注意していただきたいと思います。タイトルは、審議会での議論の中でとするのか、甲州市学校教育の現状とするのか。どうでしょうか。

事務局：この会の審議の中で出た項目をまず記載することでよいのではないのでしょうか。

議長：学校再編の考え方と基本方針ですが、これも再編ありきの書き方になっています

ので、今後の学校教育がどうあるべきかという中で、学校再編に対する審議会の考え方というようなかたちになろうかと思えます。とすると、「審議会では、小中学校の現状や今後の推計、小規模化による子どもたちへの影響等を踏まえ、学校再編の基礎となる考え方として、児童生徒の教育環境が最優先され、そのうえで地域や住民等に及ぼす影響について配慮が必要であるとし、以下のようにまとめました。」という文面でよいと思えますがどうでしょうか。再編にあたっての配慮は、具体的な方向性の中で配慮する点は次のとおりとの書き方で後の方でよいと思えます。ここでは、子どもたちの事を考えること、次に地域への影響、その中には防災への考慮も出てくるのかと思えます。学校再編といいながら、学校が単なる教育施設だけではない機能を持っている部分を考慮しながら再編を考えていかななくてはならないのではないかと。といった意味合いになります。

委員：基本的には、再編が必要だと感じています。児童生徒数が合併から3割減ったとありますが、14年間で3割ということは相当な数で減少していると思えます。学校によっては1学年3人のところもあり、5年、10年経てば1人になってしまう可能性もあります。10年後、20年後の教育環境を考えるとどこかで区切りをつける必要があると思えます。決めるときにはしっかり決めて、計画を立てて行う必要があると思えます。

委員：このままの答申案では再編ありきとなっています。この会では再編ありきで話し合っていないはずで、子どもたちや地域の人たちを含めた団体を背負っているのです。再編ありきの答申では困るということです。

議長：審議会の答申として、再編を踏まえて出してほしいという意見かと思えますが、これまでにそこまでの意見は出されなかったことを踏まえると、慎重に進めるべきと思っています。再編については、やがて再度議論することになるかもしれませんが、なるべくしないようにみんなで頑張りましょうといったことが審議会としては出せたら良いかなと思っています。

審議会の内容を加味した上での答申ということになると、「通学に対する配慮」は再編した後のことになりますので、どうかと思えます。

委員：今回いただいた資料を読む中で、方向性の議論はこの会ではなかったように思いますが、統合ありきの書き方との印象を受けました。統合しなければいけない状況であることはわかりますが、皆さんが納得するような答申を出して、それを元にどう進んでいくか考えてもらいたいと思えます。

議長：審議会としての結論は出していないかと思えます。先ほども委員からあったように、方向性が示されていない中での意見かと思えます。小学校についていうと、学校現場でも先生方が頑張っているし、地域のこともありますのでいろいろなことを考えて、現状維持をなるべく続けてもらえたらとの意見があったように思えます。中学校については具体的ではありませんでしたが、少人数ではどうかとの指摘があったかと思えます。委員皆さんから意見をいただいて、答申の骨組みの部分を作る必要があると思えます。

- 委員：結論の部分が決まれば、それに向けての答申案ができるかと思います。方向性が決まっていなかった中での答申案でしたので、行政よりの案になってしまったかと思っています。
- 議長：それぞれの委員の意見をお聞きしたいと思います。
- 委員：小規模が良いとの議論が非常に多かったと思います。小学校、中学校を分けて考えたときにそれぞれ意見を出し合った中で、小学校は残す方向で考えましょう。中学校は統合しようと言った意見も出ない中で、進んできましたので、発言がしにくかったのですが、この会の中では小規模が良い、再編しない流れにいていたので発言しづらかったのですが、小学校、中学校は考え方が違うので、小学校については現状をできるだけ守っていきたい。中学校は再編しても良いといった結論が出て、初めて答申が出せるのかと思います。
- 議長：委員としては、小中分けて考えるべきであり、小学校は残す。中学校は再編も検討すべきとの意見でよろしいですか。
- 委員：答申案の前段の部分では、なじまなかったり、無理して作ったところもあるかと思いますが、最終的に方向性の部分では、小学校、中学校を分けて結論を出そうとしています。小学校については現状で頑張ってもらいたい。中学校については、部活動もあるでしょうが教科担任が全員揃っていない。非常勤の先生を入れないと無理な現状であり、よりよい教育環境を作っていく必要からも、議論の内容を前段に記載したうえで、再編の方向でよいのではないかと思います。
- 議長：小中学校分けてとの考え方でよいですか。
- 委員：はい
- 委員：小中学校は別に考え、小学校は地域のコミュニティの核でもあるので残したほうが良いのではないのでしょうか。中学校は現状を鑑みると限界ではないのでしょうか。再編でよいのではないかと考えます。
- 委員：小学校中学校を分けて考えるべきだと思います。小学校についてはもっと強く再編すべきではない。といった書き方でも良いかと思っています。中学校については、今再編に前向きとの意見が出ましたが、実際に子どもを学校に通わせている保護者、これから通わせる保護者への配慮が必要だと思います。限界とか、ある程度の規模が良いとの意見でしたが、当事者がそう思っているのか、調べて慎重に進めた方がよいと思います。
- 委員：その通りだと思いますが、答申案のその他に含まれていませんか。議論の中でも、地域性や地域の理解を得てからとの意見があったはずですが、しっかりと行っていく必要があると思います。
- 委員：小学校でも複式学級が進んでいくなれば、再編は必要だと思います。たくさん的人数の中で集団としての活動を経験させてあげたいと思います。
- 議長：委員会も複式解消については非常に前向きに取り組んでいます。今後も取り組んでくれると思います。複式解消が再編の中心ではないと思います。
- 委員：小学校が無くなると、その地域が無くなる可能性があります。何年後とは言えま

せんが、現状でいくべきと思います。中学校は検討が必要と思います。

委員：小学校が地域にあるか無いかで、若い人が家を建てるかどうか考えると思いますので、残してほしいと思います。中学校に関しても基本的には同じです。大和地区に関しては、伝統的な文化や地域の人々の思いもあるので、別の方法で工夫していくことができると思います。勝沼中との連携や小中一貫校の導入、部活動も工夫とかできると思います。

議長：小中分けて考えずに中学校についても現状でとのことですね。

委員：はい

委員：校長会としての立場では、現状を維持してもらいたい。郷土の文化を伝えていくのも中学校が中心であり、学校が無くなれば文化もなくなってしまう恐れがあります。職場があってこそ教員もいるわけで、学校が減れば教員もどんどん減っていきます。子どもも大事ですが、教員が減れば地元の教員が他地区へ行かなければなりません。そうするとますます減ってしまいます。中学校現場も十分わかったうえで、立場としては残してもらいたいです。分校制度はできないですね。非常に重要なことを審議する時間が短かったとは思いますが。都留市も3回目の審議会を開いたと聞きました。答申案作成の上でネックになっているのは、地域住民の理解を得られるものを出したいと言っていました。この会も読んで分かってもらえるような答申案を出さないとならないと思います。

議長：今日出席の委員さん全員から意見をいただきました。小学校については現状維持で進めてほしい。答申案でも小学校に関しては詳細に記載されている。中学校については論議がありますね。再編を推進した方が良いとの意見と地域性や歴史を考えて再編についてはよく考えてもらいたいとの意見ですね。いずれの委員さんからも地域の方々と保護者、これから保護者となる若い方等の理解を得る必要があるとの意見ですね。そこは行政がやるべきこととの審議会の意見ですね。統合後のことはあまり触れなくて良いと思います。

委員：審議会の中で再編を検討する上で、配慮すべき事項として答申案には記載してもらえればと思います。小学校については、ある程度決まったかもしれませんが、中学校についてはまだ議論が必要だと思います。

議長：小学校については答申案を整理する形でまとめてもらいと思います。

委員：行政から切り離されたフラットな立場の審議会なので、答申としては地域コミュニティの中核を担っている小学校なので、児童が1人になってしまうことも想定されますが、そこは置いておいて、将来にわたって残すべきと思います。

議長：よろしいでしょうか。小学校については、委員の意見を基本に据えて展開していただく。課題になっていることについても市当局は努力していただく。中学校については、委員から先生が少ないということは教科が十分に経営できない。具体的には、非常勤の先生は学校経営への参画が薄くなるのです。校務分掌は非常勤の先生には充てられないのです。学校行事を決めるなど、重要な会議にはオブザーバーとしては参加できますが、意思決定には参加できない条件があります。

委員：もっと言うと、非常勤の先生はその教科しか教えられないのです。「教える」とは、その子がどういう状況なのかを分かったうえで生活まで含めて教えています。教科のみを教えるというのは一番良くない状況です。人間関係ができていの上での教育をしたいと思っています。そういった意味では小さい学校では抵抗感があると思います。先ほど、大和の地域文化が消えてしまうとの意見もありましたが、もっと大きく甲州市で地域の文化を広げていこう。とか。実際に松里中と一緒にやっているわけですし、一緒になったことでもっと大和の文化を知ることができると思います。

議長：地域からの思いとは違うと思います。

委員：ふるさと学習カルタもあり、地域の事を全市の子どもたちが勉強しています。学習の中でもグローバルなところもあって良いと思います。その地域の子どもたちが知るだけではなく、みなさんに知ってもらうことが必要だと思います。

委員：逆に、ふるさと学習カルタを使えば、再編しなくても甲州市全体の地域を知ることができると思います。工夫次第で、文化とか地域学習は再編しなければできないものではないと思います。

委員：肌と肌で触れ合うコミュニケーションも大事だと思います。テレビ会議だけではなく、直接やり取りをして議論を交わすことも大事だと思います。

委員：グローバル社会を考えたら、肌を触れ合わなくてもテレビ会議とかは社会でどんどん入ってくると思います。そこだけにとらわれて再編ありきとなってほしくないと思います。

議長：中学校の抱えている問題はいくつか出されていきました。テレビ会議システムについてはまだですね。

教育長：勝沼中と大和中で始めています。12月13日には実践事業として行うのですが、昨年から生徒会なども交流したりしています。

議長：交流活動も可能ですね。

教育長：はい。

議長：そういった中でも、それでは変えられないといった意見もあったわけですし。中学校の統合については慎重に行っていただきたいと思います。地域に小中学校があるなしというのは地域が大きく変わってくると思います。大藤、神金、玉宮地区の中学校がなくなって塩山北中に統合されたときに、前後を考えると地域の文化活動や歴史が違ってきていると思います。できれば地域に小中学校がある方が望ましいとは思いますが。全国的には離島で子どもが1人でも運営していますので、できないことはないと思います。それは通学の状況が大変な状況ではありますが。

委員：委員会で、少子化減少に対応した活力ある学校教育推進事業や先見的ICT環境が作り出す支援型地域創生事業、コミュニティスクールに取り組み、小学校では小規模にあった取り組みをしています。地域の事で言うと、統合は地域の理解が必要であり、丁寧に説明しないといけないと思います。慎重に行ってほしい



です。小学校が今行っているICT教育を盛り込んで、学校を維持していくといったことを考えてほしいです。

議長：小学校、中学校に限らずとの意見だったと思います。議論の冒頭で答申の骨子となることを決めないと答申案の検討に入れないのではないかとこのことで、今までの論議を含めて意見をうかがいました。その中で、低学年から6年生までの学歴の事、地域の核としての学校としても地域に1校はあってほしいとの願いもあり、小学校は将来にわたって現在の学区の中で、維持でしていくことが望ましいのではないかと。とのことでした。中学校についても、地域や子ども1人1人を大切にしている現在の教育環境を考えると小規模校でも良いのではないかと。その一方で交流する機会や学習集団の規模ということでは、現状では検討すべきとの意見と併記して答申案をまとめる方法もあるかと思いますがいかがでしょうか。一方づく委員の意見を潰してしまいますので、併記の形がよいと思っています。具体的に決めていくのは教育委員会であり、委員会が決めたことを議会が承認する形になろうかと思っています。最後に、地域が存続するか否かは大きなことですので、地域住民にきちんと説明することと、学校を現状維持することですので、甲州市の教育活動により財政的支援を行っていただきたい。旨を記載すること。前段としては、現在市が行っている様々な施策をもっと充実してほしいといった記載をお願いします。今回は、それを受けてみなさんで検討していただくことでしょうか。皆さんの意見を持ち寄っていただいて、私と岡委員とで答申を渡す方向でどうでしょうか。

では、議事を閉じたいと思います。

## 5. その他 なし

事務局：次回の日程はいかがいたしますか。予定では12月中となっておりますが、いかがいたしますか。

12月中は日程がとれないため、1月23日（木）午後7時からに決定する。

事務局：小林一三副会長より閉会のことばをお願いいたします。

## 6. 閉会

副会長：長時間にわたりお疲れさまでした。まとまりつつありますので、資料の中をじっくり見ていただいて、簡潔にまとめるようにしたいと思いますので、次回もよろしくをお願いいたします。